

会総会の会長（内藤莞爾および九州大学 尾前照雄）司会の下に「老人の生き甲斐」が行なわれ、5報告をめぐっての討論が行なわれた。

日本老年医学会総会においては、会長講演「老年者高血圧について」、特別講演「老化とホルモン」（九州大学 井林 博）、それとシンポジウム「日本人の各種動脈の粥状硬化症の実態とその成因」（司会：九州大学 田中健蔵）があった。医学会における一般演題は278題の多きを数えた。

日本老年社会科学会大会においては、学会長である渡辺定博士の特別講演「日本人の人口年齢構造革命と老年学+ α 」を始め、シンポジウム「生涯教育における高齢者の課題」（司会：中央大学 那須宗一・東洋大学 小山 隆）についての報告と討論があった。また一般演題は35題で、そのうち人口に関連のある報告としては「日本人の平均寿命はまだ延びるか」（厚生省統計調査部 古谷博子・寿命学研究会 渡辺 定）があった。

（山口喜一記）

1973年度日本地理学会秋季学術大会

日本地理学会1973年度秋季学術大会は11月10～14日、広島大学において開催され、一般研究発表、3つのシンポジウム、4つの巡検が行なわれた。このうちシンポジウムのテーマは、「侵食面」、「アジアにおける『緑の革命』と農村の変貌」、「土地の区画」であったが、当研究所からは人口政策部推計科長濱英彦技官が参加して「緑の革命」の座長をつとめた。また、推計科の伊藤達也技官は一般研究発表で「地域出生数に与える諸要因の影響力の大きさ」を報告した。

（濱 英彦記）

第27回日本人類学会・日本民族学会連合大会

第27回日本人類学会・日本民族学会連合大会は、昭和48年11月23日、24日の両日にわたり国立京都国際会館で開催された。

本研究所からは、篠崎信男人口資質部長、青木尚雄能力科長、中野英子主任研究官および分布科清水浩昭の各技官が出席した。

大会第1日目は、藤岡喜慶（愛媛大学教授）の特別講演「精神人類学の構想」、岡 正雄（和洋女子大学教授）の特別報告「映像人類学をめぐって」と一般講演があり、第2日目は一般講演のみが行われた。

本研究所からも大会第2日目に篠崎技官が「人口問題と通婚圏」、青木技官が「最近の子どもの生み方と家族周期」、中野技官が「就業状態からみた日本人女子の出産力について」と題する報告を行った。人口問題に関連する報告として渡辺直経（東京大学教授）の「人口現象における性差」と題する報告があった。

なお、民族学関係ではレヴィ=ストロース以来の構造人類学的問題を背景とした報告が目立った。

（清水浩昭記）

第17回国際連合人口委員会

1973年10月29日から11月9日まで、ジュネーブの Palais des Nations において、第17回国際連合人口委員会（Seventeenth Session of the United Nations Population Commission）が開催され、本研究所人口政策部長である黒田俊夫委員が日本政府代表としてこれに出席した。

国連人口委員会は27か国をもって構成されているが、今回の会議にはガボンとハイチの2か国が欠席し、

25か国の代表の参加をもって行なわれた。

第17回人口委員会の議長には、フィリピンの Mercedes B. Concepcion が、副議長にはルーマニアの Mrs. V. Russ, ガーナの K. T. de Graft-Johnson, およびコスタリカの V. H. Morgan が、ラポターにはオランダの D. J. van de Kaa がそれぞれ選出され、これら役員の下に議事は進行した。

会議の内容は、本誌「資料」欄に詳細が掲載されているので、ここには議題を次掲するにとどめる。

1. Election of officers
2. Adoption of the agenda
3. World Population Conference, 1974
4. World Population Year, 1974
5. African Census Programme
6. Proposals regarding demographic publications of the United Nations and financial implications
7. Report on the progress of work
8. Two-year and medium-term programmes of work for 1974-1975, 1974-1977 and 1976-1979
9. Dates and places of the next sessions
10. Adoption of the report of the Commission

(山口喜一記)

アジア社会学会議

昭和48年10月16日から4日間、日本社会学会は、日本ユネスコ国内委員会との共催で、アジア地域の社会学会を赤坂プリンスホテルで開いた。正式会議名は「アジア地域における社会学と社会開発に関するシンポジウム」であり、討論課題は「人口変動と社会開発」「経済開発と社会開発——その不均衡と調整」「社会開発に対する社会学者の役割」の3つであった。参加国は、香港、インド、インドネシア、イラン、日本、韓国、マレーシア、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、らのアジアの主役に、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、アメリカ合衆国の諸国からのオブザーバーが加わった。

アジア地域の国といっても、それぞれの国の発展段階は違っているから、社会開発についての考え方も、現実的な目標や課題は異なる。わが国は経済開発偏重で高度成長をとげた結果、社会開発の遅れがめだつ。そのわが国において経済開発一途の発展が何をもたらすかを、外国の社会学者にみてもらおうと、会議の延長として、岡山県水島地域のコンビナートの見学が、会議主催者によって企画され、外国学者の参考と反省を深める機会となったことは、討論以上の会議の成果であった。その他、社会開発という問題をめぐって社会学者に何ができるかという社会学者の課題をめぐって「アジアにおける社会学者の地域的協力」が議論された。またこれを機縁としてアジアの社会学者の交流を促進し、日本の経済進出が経済侵略的な現状から転換し、進出先の諸国民の福祉にもつながる道を探ろうとすることも、会議の主題であった。日本社会学会が国際会議を主催した第一歩であり、今後アジアにおける学問や文化の面で経済進出の罪ほろぼしをしていくようにという願いが内にあった。

(若林敬子記)